

## 関西広域産業ビジョン（改訂版） 連合委員会[11/21]以降の変更点

| 該当箇所                         | 意見・時点修正  | 対応・考え方   |
|------------------------------|--|--|
| I. 現状認識、課題                   |  |  |
| 1（1）人口の減少に伴う労働力不足            | 【時点修正】<br>現在、国において、就労を目的とする外国人の新たな在留資格の創設に向けた検討が進められており、その議論の行方にも留意する必要がある。  | 修正<br>出入国管理法改正に伴い、記載内容を変更。   |
| 1（3）グローバル化の進展                | 【時点修正】<br>現行ビジョン策定以降、環太平洋パートナーシップ（TPP）協定の署名（2016年2月）や日・EU経済連携協定の署名（2018年7月）など、広範な経済連携が進展しており、経済のグローバル化はますます加速している。   | 修正<br>TPP 11の発効（2018年12月）と日・欧経済連携協定の発効予定（2019年2月）を反映。  |
| 2（4）「2025 日本万国博覧会」開催によるインパクト | 【連合委員会：平井委員】<br>万博のレガシーを関西としてしっかり作り上げていく、そういうことを高らかにしっかり盛り込むべきでは。  | 修正<br>ご指摘の趣旨を踏まえ変更。  |
|                              | 【連合委員会：井戸連合長】<br>万博のレガシーを語ろうとすると、ワールドマスターズゲームズとか、ラグビーワールドカップ、スポーツとの兼ね合いとのレガシーになるだろう。万博のテーマとされた、健康と医療とか、スポーツもだが、そういう面での方向性みたいなものがほしい。   | 修正<br>ご指摘の趣旨を踏まえ変更。  |
| III. 広域課題に対応する「関西経済活性化戦略」    |  |  |
| 戦略1<br>（公設試関連）               | 【経済団体】下線部の内容を追記<br>府県域を超えた関西広域連合の取組みそのものもイノベーションのひとつである。規制改革を進める特区制度を活用した企業支援に引き続き取り組むとともに、公的分野における制度や仕組みの見直しなど、域内の幅広い分野でイノベーションが生まれる環境の創出を図っていく。<br><u>また、大学・国研、公設試、産業支援機関、金融機関など様々な機関が連携して入口（研究シーズ/市場ニーズ）から出口（事業化）までのワンストップサービスを実現するオープンイノベーションプラットフォーム（OIPF）を構築し、広域産業振興の観点からのOIPFの強化や各OIPFの連携を推進する。OIPFの構築を通じて、国の施策を活用しながら公設試や支援機関の機能強化を図る。</u> | 修正<br>戦略1に記載のとおり、関西において、競争力のある新たな産業を創出するためには、関西の持つ高いポテンシャルを活かしたイノベーションの創出が不可欠であり、オープンイノベーションの取り組みの拡大・推進が必要と考えている。域内にある公設試や産業支援機関など様々な機関が連携して企業支援を行うことは、広域産業振興の観点から重要な取り組みであり、オープンイノベーションの推進にもつながるものであることから、ご指摘の趣旨を踏まえ、記載内容を変更する。 |
| 戦略2、3<br>（社会課題解決型）           | 【連合委員会：三日月委員】<br>策定以降の状況変化として、SDGsの採択があるが、大変重要である。滋賀   | 修正<br>ご指摘の趣旨を踏まえ変更。  |

|  |   |  |
|--|---|--|
| <p>ビジネス)</p> <p>戦略2、3<br/>(社会課題解決型<br/>ビジネス)</p> | <p>でも、とりわけ産業分野において経済界と一緒にって社会的課題をビジネスとしてとらえて伸ばしていこうという取り組みをしている。ぜひ、SDGsの視点は具体的内容を戦略に盛り込んでいただくなど、記載の充実を。</p> <p><b>【構成府県市】</b></p> <p>①戦略3の2段落目「また、域内には・・・」に記載がある「地域の課題をビジネス手法によって解決する、社会課題解決型ビジネスに取り組む」の部分であるが、地域の課題をビジネスの手法で解決するのは社会課題解決型ビジネスというより、従来から広域産業振興局で取り組んできているスモールビジネスではないかと思料される。</p> <p>②戦略2の6段落目に「社会的課題をビジネスとしてとらえてその解決を目指す・・・」と記載があり、戦略3の4段落目と文章が重複している。</p> <p>①、②の理由から「地域の課題をビジネス手法によって解決する、社会課題解決型ビジネスに取り組む」を「<u>地域の課題をビジネス手法によって解決する、スモールビジネスに取り組む</u>」としては、どうか。</p> | <p><b>修正</b></p> <p>①については、ご指摘のとおり、広域産業振興局では地域の課題を解決するビジネスをスモールビジネスと呼んできたところ。しかしながら、その対象となる事業や企業規模が小さいとは限らないことから、読み手の誤解を招くことのないよう、このビジョンではスモールビジネスと表現していない。また、SDGsの取り組みとの違いを明確にするため、「地域課題解決型ビジネス」に変更する。</p> <p>②で指摘の箇所は、趣旨が異なるにも関わらず、同様の表現となっているため、違いを理解いただけるよう、戦略2の記載を変更する。</p> |
| <p>戦略3</p>                                       | <p><b>【連合委員会：平井委員】</b></p> <p>万博があれば人が来てインパクトがある以上に新しい産業を創造するとか、ワールドマスターズゲームズも含めて、ツーリズムとして、産業ツーリズム、スポーツツーリズムを起こしていくとか、もう少し他領域に踏み込んだ書きぶりをしてパブリックコメントに示してほしい。</p>   | <p><b>修正</b></p> <p>ご指摘の趣旨を踏まえ変更。</p>  |
| <p>関西を支える人材<br/>の確保・育成</p>                       | <p><b>【連合委員会：井戸連合長】</b></p> <p>今、言われているような人材不足に関連する、外国人就労者を含めた人材不足対策の記述がないのではないかと、という感じがするので人材不足との関連を関西はどう整理するのかという視点が必要では。</p>   | <p><b>修正</b></p> <p>ご指摘の趣旨を踏まえ変更。</p>  |